

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月10日
【四半期会計期間】	第15期第2四半期（自平成29年7月1日 至平成29年9月30日）
【会社名】	日本コークス工業株式会社
【英訳名】	NIPPON COKE & ENGINEERING COMPANY,LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鹿毛 和哉
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲三丁目3番3号
【電話番号】	東京 03（5560）1311
【事務連絡者氏名】	経営管理部経理グループリーダー 内田 浩哉
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区豊洲三丁目3番3号
【電話番号】	東京 03（5560）1311
【事務連絡者氏名】	経営管理部経理グループリーダー 内田 浩哉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第2四半期連結 累計期間	第15期 第2四半期連結 累計期間	第14期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (百万円)	38,790	54,949	89,051
経常利益 (百万円)	161	1,391	1,243
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	641	3,808	1,907
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,790	3,017	3,008
純資産額 (百万円)	42,414	46,179	43,764
総資産額 (百万円)	106,262	114,283	115,758
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.13	12.62	6.32
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	40.0	40.4	37.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,229	2,313	5,496
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,158	1,355	4,224
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,550	334	3,710
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	3,275	4,957	4,337

回次	第14期 第2四半期連結 会計期間	第15期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.27	8.06

- (注) 1. 四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気は緩やかな回復基調が続いているものの、先行きについては、中国などの海外経済の不確実性や、為替の変動影響に留意する必要があるなど、依然として見通せない状況で推移した。

このような状況のもと、当社グループの業績は、主力のコークス事業において、前年同期に比べコークス販売価格が上昇したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、前年同期比161億5千9百万円増加の549億4千9百万円となった。利益面では、前述のコークス事業の他、化工機事業における利益率改善などにより、連結営業利益は、前年同期比7億7千5百万円増加の14億9千8百万円、連結経常利益は、前年同期比12億3千万円増加の13億9千1百万円となった。

なお、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前述の理由の他、投資有価証券売却益などにより、前年同期比31億6千7百万円増加の38億8百万円となった。

（セグメントの概況）

コークス事業については、前述の理由などにより、売上高は、前年同期比147億円増加の367億2千4百万円、営業利益は、前年同期比3億4千9百万円増加の4億6千8百万円となった。

燃料販売事業については、売上高は、前年同期比3億5千万円増加の109億3千7百万円、営業利益は、前年同期比8千4百万円増加の8億3百万円となった。

総合エンジニアリング事業については、売上高は、前年同期比9億4千6百万円増加の52億1千万円、営業利益は、前年同期比2億5千7百万円増加の6億8千5百万円となった。

その他については、売上高は、前年同期比1億6千2百万円増加の20億7千6百万円、営業利益は、前年同期比1億8千万円増加の2億9千1百万円となった。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、1,142億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億7千5百万円減少となった。増減の主なものは、受取手形及び売掛金の増加15億2百万円、機械装置及び運搬具の増加10億1千1百万円、原材料及び貯蔵品の減少18億2千2百万円、投資有価証券の減少12億9千2百万円等である。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、681億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億8千9百万円減少となった。増減の主なものは、短期借入金の増加33億8千3百万円、長期借入金の減少30億9千5百万円、支払手形及び買掛金の減少27億5百万円、流動負債「その他」の減少7億6千6百万円等である。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ、利益剰余金の増加などにより、24億1千4百万円増加の461億7千9百万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ、6億1千9百万円増加の49億5千7百万円となった。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、23億1千3百万円となった。これは主に、税金等調整前四半期純利益44億7千万円、減価償却費35億6千2百万円、たな卸資産の減少額23億8千3百万円などによる資金の増加に対し、投資有価証券売却損益32億8千7百万円、仕入債務の減少額27億5百万円、売上債権の増加額15億2百万円などによる資金の減少があったことによるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、13億5千5百万円となった。これは主に、固定資産の取得による支出45億6百万円、投資有価証券の売却による収入26億6千7百万円などがあったことによるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億3千4百万円となった。これは主に、短期借入れによる収入484億7千1百万円に対し、短期借入金の返済による支出451億3千万円、長期借入金の返済による支出32億7千7百万円があったことによるものである。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上および財務上の対処すべき課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間に支出した研究開発費の総額は、3千4百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く経営環境は、長らく低迷していた原料炭市況が急騰し、それに伴い中国コークス市況も回復しており、足元の原料炭市況および中国コークス市況は、堅調に推移している。

このような経営環境のなかで、安定した収益基盤を確保するために、以下の具体的な諸施策を推進していく。

基幹事業であるコークス事業については、安全・安定操業を第一とし、コークス工場の高稼働率を維持するため国内需要向け販売減を輸出でカバーし、販売数量を確保、脱硫設備や成型炭設備などこれまで投資してきた諸施策の効果の最大限発揮、安価な低品位炭の使用拡大、設備投資圧縮や経費削減などコスト削減の徹底、等を推し進めていく。

また、非コークス事業については、多面的な利益構造への転換のため、総合エンジニアリング事業の事業基盤の安定・拡大、燃料販売事業の拡販・シェア拡大、グループ各社の収益力の強化、等を推し進めていく。

(7) 資本の財源および資金の流動性についての分析

当社グループの主な資金需要は、設備投資、原材料・商品等の仕入代金の支払、販売費および一般管理費の支払、借入金の返済、社債の償還および法人税等の支払等である。

当社グループは、事業活動に必要な資金を、営業活動によるキャッシュ・フローおよび借入金によって継続的に調達することが可能であると考えている。

また、当第2四半期連結会計期間末現在、短期借入金(1年以内に返済予定の長期借入金を含む)の残高は133億1千5百万円、長期借入金の残高は268億1千9百万円である。

(8) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループは、主力であるコークス事業のより一層の競争力強化と、非コークス事業の事業基盤強化をはかり、多面的な利益構造へ転換することで、健全な財務体質を構築し、経営の安定化と企業価値の一層の向上を目指していく方針である。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,080,000,000
計	1,080,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	302,349,449	302,349,449	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	302,349,449	302,349,449	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	302,349,449	-	7,000	-	1,750

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2-6-1	65,628,595	21.70
住友商事株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	65,628,595	21.70
那須 功	埼玉県川口市	9,246,000	3.05
株式会社神戸製鋼所	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2-2-4	9,228,500	3.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1-8-11	6,241,100	2.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	6,002,400	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	4,837,900	1.60
日新製鋼株式会社	東京都千代田区丸の内3-4-1	4,614,000	1.52
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	3,772,181	1.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	3,138,700	1.03
計	-	178,337,971	58.98

(注) 上記所有株式のうち、信託業務に係る株式は、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)

6,241,100株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)6,002,400株、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)4,837,900株、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)3,138,700株である。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 632,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 301,565,800	3,015,658	-
単元未満株式	普通株式 151,649	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	302,349,449	-	-
総株主の議決権	-	3,015,658	-

(注)上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式5,500株が含まれている。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数55個が含まれている。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本コークス工業株式会社	東京都江東区豊洲 3-3-3	632,000	-	632,000	0.20
計	-	632,000	-	632,000	0.20

2【役員の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,517	5,159
受取手形及び売掛金	10,120	11,622
商品及び製品	9,684	8,950
仕掛品	897	1,074
原材料及び貯蔵品	11,652	9,829
その他	2,487	2,306
貸倒引当金	18	4
流動資産合計	39,342	38,939
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	81,885	85,496
減価償却累計額	55,745	58,344
機械装置及び運搬具(純額)	26,140	27,151
土地	35,922	35,527
その他	22,326	22,291
減価償却累計額	14,687	15,016
その他(純額)	7,639	7,274
有形固定資産合計	69,703	69,954
無形固定資産		
その他	532	520
無形固定資産合計	532	520
投資その他の資産		
その他	6,189	4,878
貸倒引当金	9	9
投資その他の資産合計	6,179	4,869
固定資産合計	76,415	75,343
資産合計	115,758	114,283

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,788	14,083
短期借入金	9,932	13,315
1年内償還予定の社債	14	14
未払法人税等	628	164
賞与引当金	666	704
関係会社整理損失引当金	387	351
受注損失引当金	76	11
事業整理損失引当金	45	31
その他	5,312	4,545
流動負債合計	33,851	33,221
固定負債		
社債	30	23
長期借入金	29,914	26,819
退職給付に係る負債	3,716	3,551
役員退職慰労引当金	58	57
環境対策引当金	3,196	3,195
事業整理損失引当金	99	84
その他	1,125	1,151
固定負債合計	38,141	34,881
負債合計	71,993	68,103
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	1,750	1,750
利益剰余金	34,185	37,391
自己株式	107	107
株主資本合計	42,828	46,034
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,085	263
繰延ヘッジ損益	85	59
為替換算調整勘定	167	158
退職給付に係る調整累計額	230	216
その他の包括利益累計額合計	936	145
純資産合計	43,764	46,179
負債純資産合計	115,758	114,283

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)
売上高	38,790	54,949
売上原価	35,417	50,658
売上総利益	3,372	4,291
販売費及び一般管理費	2,649	2,792
営業利益	722	1,498
営業外収益		
受取配当金	74	60
為替差益	-	173
その他	44	174
営業外収益合計	119	409
営業外費用		
支払利息	259	227
環境対策引当金繰入額	104	112
その他	317	175
営業外費用合計	681	516
経常利益	161	1,391
特別利益		
投資有価証券売却益	178	3,287
その他	392	162
特別利益合計	570	3,450
特別損失		
固定資産除却損	298	309
その他	53	62
特別損失合計	351	371
税金等調整前四半期純利益	380	4,470
法人税、住民税及び事業税	62	309
法人税等調整額	316	352
法人税等合計	254	661
四半期純利益	634	3,808
非支配株主に帰属する四半期純損失 ()	6	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	641	3,808

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	634	3,808
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,068	821
繰延ヘッジ損益	32	25
為替換算調整勘定	42	8
退職給付に係る調整額	12	14
その他の包括利益合計	1,156	790
四半期包括利益	1,790	3,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,797	3,017
非支配株主に係る四半期包括利益	6	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	380	4,470
減価償却費	3,723	3,562
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	13
賞与引当金の増減額(は減少)	148	38
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	222	143
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2	1
環境対策引当金の増減額(は減少)	26	1
事業整理損失引当金の増減額(は減少)	58	31
受注損失引当金の増減額(は減少)	4	65
受取利息及び受取配当金	84	74
支払利息	259	227
為替差損益(は益)	115	12
固定資産除却損	298	309
固定資産売却損益(は益)	20	159
投資有価証券売却損益(は益)	230	3,287
保険差益	303	-
売上債権の増減額(は増加)	417	1,502
たな卸資産の増減額(は増加)	1,242	2,383
その他の資産の増減額(は増加)	942	75
仕入債務の増減額(は減少)	2,543	2,705
未払消費税等の増減額(は減少)	89	577
その他の負債の増減額(は減少)	347	463
その他	57	69
小計	3,431	3,112
利息及び配当金の受取額	79	74
利息の支払額	261	229
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1	720
保険金の受取額	1,300	75
災害損失の支払額	1,320	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,229	2,313
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	49	19
定期預金の払戻による収入	4	1
固定資産の取得による支出	3,151	4,506
固定資産の除却による支出	258	258
固定資産の売却による収入	49	569
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	256	2,667
その他の投資の回収による収入	3	214
その他	11	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,158	1,355

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	7,132	48,471
短期借入金の返済による支出	6,900	45,130
長期借入れによる収入	150	225
長期借入金の返済による支出	3,301	3,277
社債の償還による支出	7	7
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	603	603
その他	20	12
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,550	334
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	2
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,512	619
現金及び現金同等物の期首残高	6,787	4,337
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,275	4,957

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はない。

(会計方針の変更)

該当事項はない。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はない。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はない。

(追加情報)

該当事項はない。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	3,457百万円	5,159百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	182	201
現金及び現金同等物	3,275	4,957

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	603	2.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	603	2.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計額	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コークス事業	燃料販売事業	総合エンジニアリング事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への 売上高	22,024	10,586	4,264	36,875	1,914	38,790	-	38,790
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	529	529	141	670	670	-
計	22,024	10,586	4,793	37,404	2,056	39,461	670	38,790
セグメント利益	118	719	428	1,266	111	1,377	654	722

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸荷役事業、不動産販売・賃貸事業等を含んでいる。

2. セグメント利益の調整額 654百万円は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 656百万円である。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計額	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コークス事業	燃料販売事業	総合エンジニアリング事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への 売上高	36,724	10,937	5,210	52,872	2,076	54,949	-	54,949
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	0	397	397	142	540	540	-
計	36,724	10,937	5,608	53,270	2,219	55,490	540	54,949
セグメント利益	468	803	685	1,956	291	2,247	749	1,498

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸荷役事業、不動産販売・賃貸事業等を含んでいる。

2. セグメント利益の調整額 749百万円は、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 756百万円である。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成29年9月30日)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載していない。

(有価証券関係)

その他有価証券で時価のあるものが、企業集団の事業の運営において重要なもの、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動があると認められないため、記載していない。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成29年9月30日)

デリバティブ取引の契約額その他の金額に前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載していない。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円13銭	12円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	641	3,808
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	641	3,808
普通株式の期中平均株式数(株)	301,719,433	301,718,183

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2【その他】

該当事項はない。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月9日

日本コークス工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内田 英仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 友裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本コークス工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本コークス工業株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管している。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。